

# 個人と社会生活

～社会参加力の基礎作りを目指した授業づくり～

山形県南陽市立吉野中学校 塚原常太郎

## 1

### はじめに

社会科は有為な国家・社会の形成者を育成することを目標としている。具体的には、地理的、歴史的教養を土台とし、身近な社会から国民社会までの様々なレベルにおいて個人の役割を自覚したり、他と交流したり、また意見を表明したりする能力を育成しなければならないことを意味している。公民分野においてはこのような能力を直接育成することをねらいとしている。

ここであつかう「個人と社会生活」という単元はその意味で重要な役割を果たしている。公民分野においては、政治学習や経済学習において社会集団を取りあげることが多い。したがって、人間はなぜ社会を形成するのか、社会における個の役割はどういうものかなどについてやや抽象的な扱いになるがある程度理解が必要なのである。

最近、家族や地域社会の機能が低下してきているという指摘が見られる。大昔においては、家族や氏族（親類）という集団が、子どものしつけから衣食住に必要なものを確保すること、さらには老人や障害者の介護を行ってきたが、その機能が社会の高度化とともに分化してきたのである。

このような現実を前にして、これから未来社会を形成していく生徒にはあらためて「人

間は社会的存在」であることを土台として、個人と社会の関わりを正しく認識させたいものである。

## 2

### 単元構成について

学習指導要領の解説にも明記されているが、本単元で身につけた「個人と社会の関わり」に関する見方や考え方は以後の学習の基礎となるものである。このようなねらいを実現するため、単元を構成するのであるが、その際のポイントについていくつか述べたい。なお、本単元には5時間をあてている。

#### (1) 人間は社会的存在である

本単元の学習全体を通して身につけたい社会の見方である。人間はまったくの単独で、欲求、要求を実現できるものは限られている。その多くは他との相互交流の中で実現できるものである。そのために人間は社会を形成しているのである。したがって、まったくの個と社会の中における個とでは当然異なった性格を有する。このような見方が今後社会を見る見方の基礎となる。

#### (2) 物語や事例を通して社会の特質を追究する

このことは方法上の工夫である。内容がやや抽象的であるので、具体的な家族や地域社

会を取り上げる前に、教師が作成した物語や事例を提示して考えさせた方がより理解できるであろうと考えた。このような教材を準備し、興味関心を持てるような問いかけと生徒から引き出した発言から社会の本質にせまる基本的事項を引き出したい。

### (3) 今後の政治学習や経済学習につなげることを意図した授業づくり

社会にはルールというものがある。人間が作る社会には必ずルールが存在する。そのルールの決まり方も多様であるが、個々の相互交流の中で決められる。もしルールがなければ社会の維持は困難である。このようなことは生徒も理解できる。ただ、これから未来社会を形成していく生徒にとっては、より高い価値的認識が必要であろう。

このことを理解するために、さまざまな集団には何らかの目的があるということに気づかなければならない。それはより快適な生活を行うこと、能力を身につけること、教養を深めより豊かな生活を実現するといったものであろう。このような価値的認識が欠けると将来社会を形成していく基礎力は育たないだろう。制度や規範などもこのような視点から考えることが必要である。

## 3 学習計画

### 第1時 「社会」について意識する。 ～無人島の暮らしを例に～

#### 「ねらい」

人間は生まれてから死ぬまで、様々な集団に所属し、それぞれ目的を持ち、個人にも期待される役割があることに気づく。

### 「学習過程」

- ① デフォーの作品「ロビンソンクルーソー」を脚色し、狩りや採集をしたり、衣服や土器を作ったりして生活する一人の人間の生活を紹介する。
- ② 「このような生活にあこがれますか」と問いかける。
- ③ 「この島にもう一人の人間が入り込んで近いところで生活するとどのようなことが起きるだろうか」と問う。
- ④ 人間が複数集まれば、相互交流が始まり、「決まり」なども作られることを確認する。
- ⑤ 「生まれてから死ぬまで人間はどのような集団の中で生活しますか」と問う。(家族、地域社会、学校、会社)
- ⑥ 「学校という集団と、たまたま電車に乗り合わせた集団とでは何が違うだろうか」と問う。(持続的な相互交流、目的の有無に注目させたい)



### 第2時 家族生活の中で

#### 「ねらい」

社会集団としての家族の役割について考え、家族内の個の役割にも変化が見られることを

理解する。

### 「学習過程」

- ① 教科書p.25の家族の役割に関する資料を見ながら考える。
- ② 子育てをしなければ、と最近の父親は考える。というのは、確かにたいへんな仕事だが、男女が協力して子育てしようとするおに考えているのは、とてもすごいことだ。
- ③ 「人間と動物の赤ちゃんには生まれてから数年の間の様子にどんな違いがあるだろうか」と問う。(動物の子は生まれるとすぐ立ち上がるが、人間の場合は1年もかかる、親はそのあいだに言葉や決まりなどを教える)
- ④ 教科書p.25「協力して育児をする」の写真を見ながら、家族内の役割について考える。(女性の社会進出、企業の理解が得にくいこと、法律の制定が見られることに注目させる)



## 第3時 なぜ校則があるのだろう

### 「ねらい」

社会集団にはその目的や秩序の維持のため

にルールがあることを理解する。

### 「学習過程」

- ① 「校則のない自由な学校に入学したA子さんはやがて学校がいやになり、中学校の時の担任にやめたいと相談してきた」という事例を紹介する。
- ② 「校則のない学校にあこがれますか」と問いかける。(彼女の学校では、制服、時間割、登校時間、食事時間などに決まりは一切ない)
- ③ 「A子さんはなぜやめたかったのか」(じつは、A子さんは将来福祉関係の大学に進学したかったということをつけ加える。その場合、彼女が行きたい大学にとって、いま必要なことはなんだろうか)
- ④ 「あなたがこの学校の生徒なら何を望みますか」と問いかける。(まったくルールのない生活より、生徒会が必要だったり、どのようなルールが必要なのか、考えさせよう)



- ⑤ ルールはしぼりだけではなく「どのように学校生活を考えるか」という目的のためという事実に気づかせる。

## 第4時 社会生活の中で①

### 「ねらい」

地域社会での体験を振り返り、人々の交流が地域社会（コミュニティー）を形成していることに気づく。

### 「学習過程」

- ① 教科書p.27の「地域通貨」について説明する。（人間がふれ合うことが目的）
- ② 学校でのボランティアの意義について考える。（各校の例を聞いて、なにができるか参考にしたい）

## 第5時 社会生活の中で②

### 「ねらい」

社会の中の自由と責任の理解を土台とし、「社会的存在」としての人間の意味について考える。

### 「学習過程」

- ① 教科書p.30の「マンションの問題」について考える。（何が問題なのか考えよう）
- ② マンションの住民はいろいろな問題について、どのように問題を解決していったのか確認しよう。（話し合い、納得する形でのルールの設定が必要）
- ③ 「ルールを守らない人がいたらどうする」と問いかける。（何らかの強制力が必要であることには気づくだろうが、どのようにするのか、みんなが守る、ということに期待したい）
- ④ 身近な地域での「問題」を出し合い、解決策を考える。（この場合、どのように考えるのが問題。どうしたらみんなが守れる策になるのか）
- ⑤ 「社会的存在」の意味について確認し

総まとめをする。（人は単独では生活できない。他との交流が必要である。社会には目的があり、そのため個人には役割が期待される）

## 4

### おわりに

「社会」は与えられるものではなく、作っていくものであるということを生徒には理解させたい。そのために、ルールや制度それに規範があるということを後の学習でも意識して指導したい。

具体的なことについて、下記のような評価基準について、みんなで考えたい。

関心 意欲 態度	人間が本来社会的存在であることに着目する。 社会規範のなかで生活していることを自覚する。
思考 判断	個人と社会との関わりを考える。 男女共同参画社会基本法を例に、何が問題となっているか考える。
技能 表現	日常の事例で考え、発表できる。 社会集団の期待を通して役割を獲得する。
知識 理解	個人の尊厳と両性の本質的平等と社会的集団の特性について理解できる。